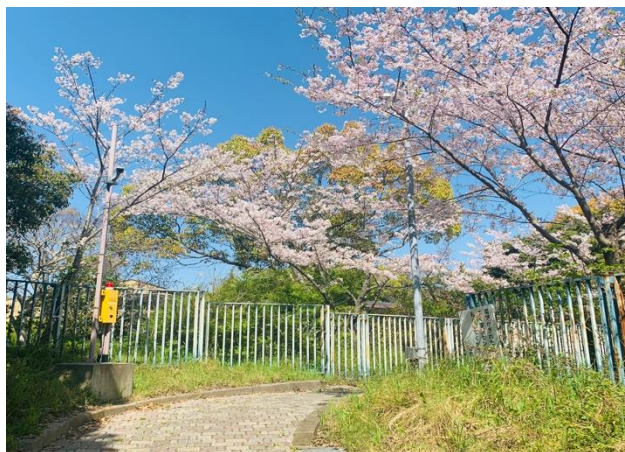


僕から後輩の君へ

リュウ ユハク
経済学部 研究生 中国

秋暑し不眠の夜や天の川
しばれたや彷徨うな日々日足伸ぶ
山笑ふ桜とともに卒業式
梅雨入りと寂たる若葉潤して



新入生の皆さん、ご入学おめでとう！皆さんの入学をきっかけに、皆さんと繋がれることをすごくうれしく思っている。これからの新たな生活に、不安や期待で胸を躍らせているかもしれないが、皆さんより少しばかり経験のある先輩として、僅かばかりのアドバイスをしたいと思う。

“重くないかな？” “めちゃ重そう、こいつ干し梅顔してんじゃん...”

一年前のあの日は、今でもはっきりと覚えている。スーツを着ているのにまるで少年のような僕は、体の半分ぐらいもあるキャリーバックを引っ張りながら、一步ずつ和歌山大学の坂を登っていた。荷物が重すぎるのだろうか、あるいは緊張感だろうか、まったく分からないが、汗まみれのシャツの下に、どきどきしていた胸の感覚と燃えるほどの呼吸、それだけしか覚えていない。あの強い日差しをとともに、僕はこの緑の海に足を踏み入れていた。和歌山といえば、皆さんはどんなイメージを持っているだろうか。たぶんまだピントこないかもしれないが、ここに住んで、8 か月ぐらい経つ僕も、まだいろんなところに行っていないから、見ていない景色まだいっぱいある。和歌山はやんわりと和やかな雰囲気包まれているけど、けっして静かではないなと僕は今そう思っているんだ。なぜなら、スーパーなどは、賑わっていて、レジには人が常に並んでいることもあるからだ。深夜、バイトの帰り道に居酒屋から出たばかりサラリーマンたちが、酔って歌う声が聞こえたこともたまにある。ハーレーエンジンの狂ったような音が、窓を閉めていても、はっきり聞こえるなんて、まったく思わなかった。田舎のくせに。田舎だからこそ、買い物が非常に便利だったり、業務スーパーとかドンキなど、私たち自炊の生活者をほんとに助けてくれる。それにきれいな空気がはっとするくらいおいしかった。たまに放課後の小学生たちに出会ったら、元気なあいさつをしてくれるが、照れないでちゃんと答ようよ。たまにスマホから離れて、まわりの景色をゆっくりと見たら、人々の間にお互いの声が落ち着いて聞こえる。いろんな短所と長所をあわせて持っている和歌山だからこそ、この和やかさや人の優しさを皆が感じて、どんどん安堵できるようになるはずだ。

初めてバスに乗った時、20分おきに発車するということには少し驚いた、自転車はすごく重要な存在になるかもしれないから、中古店に寄ってみたいらいいと思う。NHKの係の人は決して道理の通じない人ばかりではないから、偶に来たら優しく対応して、対話練習の

チャンスだと思ってもいいと思うよ。サンドラッグなどで買い物した時、その都度、“ポイントカードを持ちではないでしょうか。”とレジの人に聞かれたら、ごまかさないでください。“ポイントカードが作りたい”などと答えてみよう！　こうやって、様々な経験を積み重ねて、新たなことに挑戦して、自分らしい生活を過ごしてみよう！

和歌山の気候は、まるで恋にはまっている女の心のような気候で、本当に複雑だな。

“明日、また雨かよ”と呟きながら、乾いていない靴下を元に戻した。6月中旬ごろに、和歌山は梅雨を迎えた、5月下旬はまだエアコンの暖房を使っていたのに、6月に入ったばかりのある日、温度が急に上がった。この頃からずっと11月まで、夏服を着て過ごせる。12月が近づくと、そろそろ冬用の掛け布団を買わなければならない。和歌山の冬は、とても寒かった。中国で北の方の出身だけど、南で六年ぐらい生活していた僕にとっても、まだまだ堪えられない。3月になって、また新たな春を迎えた。

学校の生活については、自分で探してください。自分が何か好きなのか、何を知りたいのか、色々なことを自分で考えて、様々な活動に参加して、体験したり、好奇心を満たしたりしてください。そして、明日はどんな人に出会うだろう、できることがどのくらいあるだろうか、自分に期待して、たとえ一人で勝手に盛り上がりもいいから。思い出を自分の手で作って、景色など自分の目で見て、体験してください。今の自分を未来の自分が見て、“おもしろかった。”と思えたら、それは素晴らしいと思うよ。どうぞ今の時間を楽しんでください。

今年は強い雨だ、いつまで続くのか見当がつかない。でも、このことは私たちに与えられた試練だと思う。「きっとはれる日がくる」と僕は心から信じている。

微かな5時のチャイムの響きが聞こえたから、そろそろ晩ご飯の支度しないと。“この時期の梅干しほんまに美味しいな！”

最後まで、このくだらなくて冗長な僕の「君へのアドバイス」を読んでくれて、誠にありがとうございます。



A letter to you

Yubo Liu

Faculty of Economics, Research Student / China

Thanks for meeting, for the time being, as a "coming person", let me talk a little about Wakayama and come up with some suggestions. The first thing I remembered was that hot summer, I stepped into this green ocean. Even after living here for more than eight months, there are still many unseen scenery. Wakayama, originally thought to be like a sheep, for me now, it really has "lively" not lost to the metropolis. Occasionally, there are also salaried people who just crawled out of the izakaya and sang songs on the streets at night; and the motorcycle team should be Wakayama specialty, and I often heard the sound of Sahan's engine, which made me doubt my ears again, but just Because this country also brings a sense of security that the city does not have; people slow down, as if to unload the cell phone. The climate here is quite like the south, but spring and winter always come two or three months late; the temperature is even more clueless, and the hot wind was a few nights before, and immediately after arriving at home, it was not possible to dress degree. When you first came here, bicycles might be more important. You can go to the Middle Ages store to check it out. At first, it may not be as smooth as communication, but don't be discouraged.

给你的一封信

劉育伯

經濟學部 研究生 / 中國

感谢相遇，暂时让我以“过来人”的身份，稍微讲讲我生活过来的和歌山和提一些建议吧。最开始回忆起来的是那个炙热的夏天，我踏进了这片绿色的海洋。就算在这里生活了八个月，仍有许多未曾见过的风景。原以为像绵羊似的和歌山，对现在的我来说，它着实也有不输给大都市的“热闹”。偶尔深夜的街道上也有刚从居酒屋爬出来唱着歌的工薪族们；而摩托车队应该是和歌山特色，常会听到撒欢儿了的引擎声，不由得让我又怀疑起了自己的耳朵，但就是因为这乡下呀，同样扎实的带来了城市没有的安全感；人们放慢着脚步，也仿佛将那手机的重荷卸去了般。这里的气候挺像南方，但春冬总是会晚两三个月才来；温度更是让人没有头绪了，明明前几阵子还是开着热风的晚上，紧接着就到了在家不能穿衣的程度。刚来这的时候，自行车可能会比较重要可以去中古店瞧瞧。一开始也许没法交流的那么流畅，但是别灰心谁一开始都这样，多去创造和寻找能说话的机会，成果和实绩只会从不断的无聊的磨砺和沉淀中得来，所以放心去努力呀。其实还想再说说关于学校，但总觉得自己去探索可能会更有趣一些。最后，感谢将这冗长的信读下来的你。